第百十四回楽々俳句会(ちば)

令和六年十二月十二日(木)　晴　登渡神社

会場　参集殿　十時集合　投句三句　茶話会

久　2　本殿へ寒さ沁み込む石畳　武彦
久　2冬座敷まずは一礼奉納句　成子
武　狛犬も怖い顔して年用意　信雄
武久　5着なれたる服のぬくもり十二月　洋子
武久　1冬ざるや名残の錨錆すすむ　成子
武　2 1風化してやさしき地蔵冬ぬくし　育子
武　2 1登渡や雀不在の一茶の忌　粋歩
久　3鉛筆の芯の不機嫌今朝の冬　今日子
久　2幾重にも色の重なり落葉道　育子
久　2うつぶせに並ぶ柄杓や石蕗の花　宣子
久　1竹箒二本立て掛け年の暮れ　武彦
久　1手水の龍アカンベーぞ年の暮れ　信雄
久　1冬蝿に見えし節穴神楽殿　粋歩
1 2拝殿の鏡に写る冬紅葉　園子
1　そろばん珠乱るる暮の太子堂　久登
4奉納の俳句は重し収め句座　武彦
2静けさやまばゆき銀杏落葉かな　今日子　切字は１つ
2日を集め奥まで温し椨の洞　久登
2下の名で同志呼びあふ納め句座　恵美子
2一色に銀杏落葉の敷きつまる　今日子
1本殿にかぶさる寒気吟行会　宣子
1神楽殿背にして坐る日向ぼこ　粋歩
1山茶花に戯むる子猫花散らし　園子
1おでん食ぶ三角四角球楕円　洋子
1朝寒や出勤前の氏神様　→に氏神へ　宣子
1赤々と社務所彩る実千両　成子
1大屋根に輝く命枯紅葉　豊隆　大屋根の月星紋や
1窓ガラス写真となりて冬紅葉　静代
これも又あつたことなり寒昴　あの時の
鳥居よこ小き真赤な冬そうび
店先に並ぶ商品年用意
健康の過信戒め冬に処す
歩測会ひしと靴音枯葉鳴る
月冴ゆや忘れし「60」庚申塚　60が分かりにくい
冬の夜や古き句帳を読みかえし
街路樹や季節外れの冬木立　季節外れと冬木立が？
家電鳴る聞き分く厨年用意　家電を具体的に
一歩ごと異なる感触落葉道
行き行きて銀杏落葉にはまり入る

俳句や短歌の仲間は「連衆(れんじゅう)」と言う

参加者　成子・園子・育子・静代・恵美子・宣子・今日子・洋子
豊隆・粋歩・武彦・久登

投句　・信雄　**欠席**　ミチ子・弘子・利太郎

次回予定

一月九日（木）　兼題「七草」　十時活動センター
二月六日（木）　兼題「節分」　十時活動センター
三月六日（木）　十時活動センター